



第34号

2018年1月1日

発行・一般社団法人幸樹会「幸樹」編集委員会

……………幸樹会事業所……………

からたち薬局・介護ショップからたち ☎047-710-2785

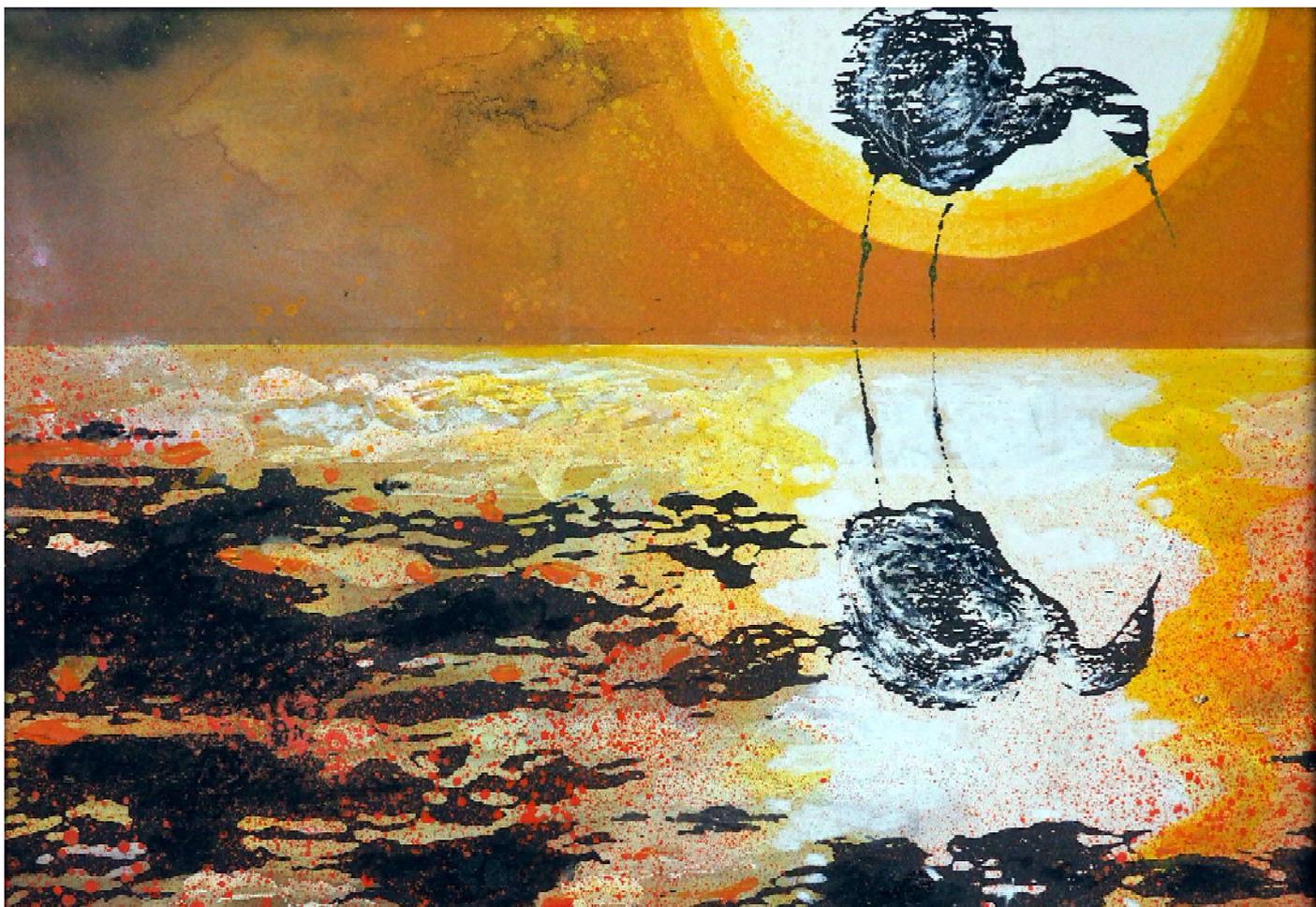
あんず訪問看護ステーション ☎047-701-5559

あんず居宅介護事業所 ☎047-701-5558

ケアステーションゆず ☎047-701-5506

看護小規模多機能型居宅介護さんしょう ☎047-710-0331

〒270-2254 千葉県松戸市河原塚 411-1 幸樹会館



絵・井上 忠司 いのうえ ただし 愛知県生れ。文化学院デザイン科卒業後、グラフィックデザインの世界へ。食品関係・洗剤関係の仕事を経てパッケージのアートディレクター（AD）になる。リタイア後に趣味で始めたバードウォッチングにはまり、10年間鳥の絵を描いてきました。さんしょうのご利用者です。

明けましておめでとうございます

一般社団法人幸樹会代表理事 中野三代子

幸樹会では、6つの事業所が新しい年を迎え、張り切っています。私達は、地域ケア・在宅ケアの分野で、病気や障がいがある方々、高齢者の方々が安心して住み続けることができる事業を展開することを目的に4年前に法人を設立しました。昨年は各事業所が役割を果たし、医療機関や地域の皆さんとの連携もスムーズに、密になってきていることを実感する年でした。前に進むときに、私は必ず初心を振り返ることにしています。法人では理念に立ち戻り、今年最初の一步を進めたいと思います。ホームページが新しくなりましたのでご覧ください。本年もどうぞよろしく願いいたします。



第12回地域交流カフェ

盛りだくさんの企画を 楽しみました!!

12月19日の地域交流カフェ「クリスマスを楽しみましょう」には、利用者・近隣の皆さん、グレースホームの皆さんなど、さんしょうのリビングがいっぱいになる程、大勢の方々にご参加いただきました。

まずは、カフェのお食事会から開始となりました。釣り師さんから差し入れの真鯛でつくった「鯛めし」や「鯛の寄せ鍋」などを楽しんでいただいたり、グレースホームの皆さんが持ち寄ってくださった稲荷ずしやサーモンのマリネなど沢山のご馳走が並びました。

お食事を楽しんでいる間、幸樹会職員ハンドベル部が「きよしこの夜」「アメージンググレイス」など、素敵なメロディーを奏でてくれました。

近隣の教会グレースホームさんからは、岡野俊之牧師さん始め聖歌隊の皆さんがクリスマスのお話や賛美歌を披露してくださり、一気にクリスマスムードが盛り上がりました。

クリスマスムードが盛り上がったところに、さんしょうのサンタクロースが登場、皆さんにプレゼントをお届けしました。中身は？職員が作製したタオルケーキです。タオルにのっているイチゴまで職員手作りです。目で見ても楽しんでいただけた様で「これ、食べれるの?」「かわいいね。使うのがもったいないわ」など、色々なお言葉をいただきました。

まだまだ企画は続きます。

「スノードームを作りましょう」では、作品作りを行いました。瓶の中に綿雪を吹雪かせサンタクロースや雪だるまなど好みの置物を入れ、蓋をして世界に一つ自分だけのスノードームを完成させ、思い出としてお持ち帰りしていただきました。

さあ、いよいよラストは?…、曲に合わせて「ズンドコ体操」が始まりました。両手にポンポンを持ち、全身を使い体操を行うと、皆さんますますにこにこ笑顔に。そこへ、さんしょうの“氷川きよし”さんが登場、会場がワーンと一気に華やぎました。“氷川きよし”さんから皆様の首にレイがかけられると、「キャー、素敵ー」と、声援いっぱい、笑いっぱい、とても賑やかな雰囲気になりました。

お腹の底から笑い、美味しい食事をいっぱい食べ、お互いに交流できた楽しいひと時でした。今後も色々なアイデア企画があります。是非お気軽に遊びに来てください。
(田中和世)



サンタさんから手作りプレゼント



岡野牧師と聖歌隊の皆さん



みんなで「ズンドコ体操」

次回、地域交流カフェは コント de げき隊

公演演目

消費者詐欺防止コント

高齢者いたわりコント他

主催・NPO いちぶんネット

2月20日(火) 12:30~

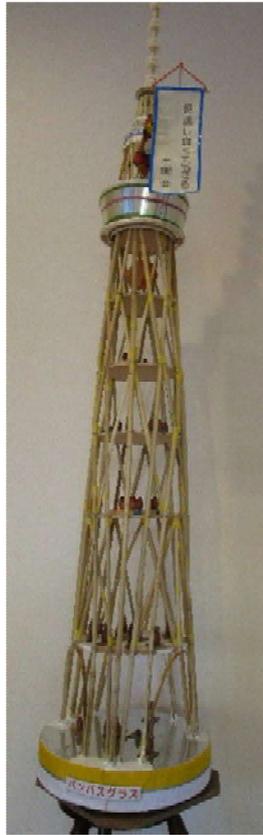
場所：さんしょうリビング

お楽しみに。ぜひご来場ください!



見通し よくて ござる

幸樹会館玄関の壁に展示されている見事な網目陶芸の作者・和田秀雄さん(85歳)が、今度は、面白力作「スカイツリー」を展示してくださいました(写真)。主軸はパンパステグラス(西洋ススキ)、六実公園育ちのどんぐり、資源ごみなどを活用した楽しい作品で、本物のスカイツリー(634m)の400分の1の1.6mです。「見通しよくてござる」とのぼりを持った甲人形も乗っています。年末まで展示していただきました。



第8回さんしょう運営推進会議報告

12/19(火)、第8回さんしょう運営推進会議を開催いたしました。今回も、利用者・地域の方々、地域包括支援センターや三和病院のMSWの皆さんが参加して下さいました。また、松戸市小多機連絡会から、6月に開設したばかりのサンパティオ・阿部施設長、高津ケアマネジャー、米澤主任も参加されました。

参加された利用者さんが、先日体調不良となり入院されましたが、「一人で生活していると、自分のことには疎くなってしまって、自分の体調が悪くなっていたことにも気づけなかった。さんしょうの皆さんが素早く対応してくれて処置してくれたからすぐに入院し、翌日には退院できた。親戚が遠くにしか居ないから、ここの方々には本当に助けられた」と発言されました。私どもも、もっと利用者さん一人ひとりにアンテナを張って、少しの変化も見逃さないようなケアをしていきたいと思えます。

活動報告のいも掘り大会後にさんしょうリビングで子供たちと一緒に食事を摂っている写真を見て、「楽しそうな写真ですね。子供の教育上にも良いことですね。今はどこも核家族で老人と接する機会が非常に少ない。このような環境に触れて育つことはとてもいいと思えます」とのお言葉を頂きました。まだまだ、地域の人たちへのアナウンスが足りないとの叱咤激励もいただきましたので、もっと広報活動をおこなっていきたく思います。

(岡本健吾)

おせち づくり

年末、さんしょうの手作りおせち料理で、元板前の



助川さんが大活躍。かつら剥きした大根や京人参できれいな紅白なますを作ってくれました。裕子さんが「遅くまで残ってもよいから頑張って作ろうよ」と、栗きんとんや酢蓮、黒豆、数の子の西京漬けと、一日中作り続け、島田さんが「松前漬のするめと昆布」を食べやすい大きさに切ってくれたり、みんなで協力して美味しいおせち料理が沢山できました。

シリーズ・『いまと昔の物語』から見た 河原塚の風景いろいろ…⑤ 「おこもり」の起源解明

河原塚史編纂事業では、河原塚の歴史をひも解く多くの貴重な発見がありました。

熊野神社では20年ほど前まで、地域の女性たちが毎月2回集まって、太鼓を打ちながら「南無妙法蓮華経」を唱えていました。なぜ神社で「南無妙法蓮華経」を唱えるのか、いつから始まったのか、宗教とどう関係あるのか、だれも分かりませんでした。

その謎がすべて分かりました。始まったのは正徳4年(1714)、江戸時代中期から。当時の本勝寺21世住職・日定上人が板のご本尊をつくって熊野神社の本殿に納め、「南無妙法蓮華経」を唱えはじめました。これに地域の女性たちも一緒に加わった、そのうち住職が不在のときもあったが、「おこもり」は女性たちの手で300年もの間、続けられていたということです。



本勝寺

日定上人が「南無妙法蓮華経」を唱えたのは、神様は仏教徒を守護する存在としてある、だからその神様を守る必要があるということです。

河原塚の熊野神社だけでなく、市川など周辺の神社でも「おこもり」がいまも続けられています。なぜ神社で「南無妙法蓮華経」なのか、起源を知らないままです。

熊野神社で起源が分かったのは、平成6年に神社を建て替えたさい、本殿の中から見つかった小さな板のご本尊。それをもとに、本勝寺住職の川村貫朗上人が謎を解きました。

(河原塚史編纂委員会幹事・内中偉雄)



デンマーク便り

ラスムッセン 京子

デンマークの年越しは、12月13日の聖ルシア祭から始まります。聖ルシア祭はスウェーデンで始まったものです。ローマ時代に遡るお話ですが、異教徒と政略結婚の話が進んでいたルシアが、天上のキ



リストに自らの一生を捧げたいという思いから、自分の結婚持参金を貧しい人々に施し、人々の心に希望の灯を灯したのです。ルシアを思い通りにできない婚約者は彼女がキリスト教徒であることを密告、キリスト教に脅威を抱いていたローマ皇帝ディオクレティアヌスは、304年に、ルシアを処刑しようとし、拷問にかけて両眼を抉り出します。しかし、ルシアは何と目を失っても見えたそうです。彼女は殉教者として北欧で崇敬される聖者の一人です。キリスト教伝来前の「光の祭り」がルシア信仰と結びつき聖ルシア祭となりました。旧ユリウス暦では12月13日が“冬至”とされていたので、この日が選ばれたのです。教会では少女たちがロウソクを手に聖ルシア称える賛美歌を歌い(写真上)、説教が行われます。この日を境に段々陽が長くなり、自然に生命が蘇っていくということ、北欧の人々は待ち望んだからでしょう。

24日のクリスマスイブには家族が集まって夕食を共にし、クリスマスツリーを灯し、プレゼントを交換し合います(写真下=京子さんと子どもさん達)。

年越しの12月31日、今度は友人達を招きます。仮装パーティーをすることも多いようです。女王様が挨拶するのを聴いて、友人たちと団欒し、0時の鐘をきくと同時に上っていた椅子やソファから床へ飛び降り、皆でシャンパンで乾杯します。来年に飛び込んで行く事を象徴します。その後花火を打ち上げる習慣があります。

5日夜にクリスマスツリーにもう一度火を灯し、6日のイエスの誕生時に来訪してきたという“東方の三博士の日”をもって、年末年始のイエスの生誕の祝いは終わります。

とはいえ、デンマークは2日から平日です。

KAIZEN 一歩一歩、前に進もう!

幸樹会では、幸樹会館・さんしょう開設後1年たった2017年度中間職員全体会議で、より業務を改善し、ケアの質を高めようと「改善運動」に取り組むことを決め、実践を始めました。その中からの事例を紹介します。

3色のカゴで管理

からたち薬局

改善前 薬の予製や調剤済・投薬待ちのものを1色のカゴに入れて管理していた。外来や在宅の患者さんなどすべて同色のカゴに入れていたので、カゴも多く、その中から当該患者さんのカゴを探すのが大変だった。

改善後 外来患者さん用、さんしょう・在宅患者さん用、特養患者さん用の3種類の色のカゴで管理するようしてみた。

効果 当該患者さんの薬がどこにあるか、視覚的にわかるようになり、スピーディに探すことができ、大変さがかなり解消した。

八柱学習会(定期勉強会)

●前回報告 12月15日(金)。助言者 武井幸穂氏

テーマ: 社会保障と財政・経済

京極高宣『共生社会の実現』

参加者15名。医療・介護など社会保障は、給付負担や財政負担の面からだけとらえるのではなく、産業連関効果・地域経済の活性化など産業・経済上の面からとらえることが重要。少子高齢・人口減少社会時代の社会保障の大きな役割を改めて確認できました。

●次の回学習会予定(定例日: 毎月第3金曜日)

日時: 1月19日(金) 18:30~19:30

テーマ: 特別講座「上手に生きる」第1回(下案内)

*場所: 幸樹会館2階 *参加自由

八柱学習会・特別講座

「上手に老いる」

—自己点検ノートを使って—

講師: 石黒 秀喜氏

(元厚生労働省老健局介護保険指導室長)

●1月19日(金)、18:30~

●3月16日(金)、18:30~

場所: 幸樹会館2階会議室

今月の屋上太陽光発電量は、

766KW



幸樹会館電力使用量 6112KW 自給率 12.53%